

【幼保小連携通信】

保育課・学校教育課
幼保小連携担当

夢に向かって挑戦する子ども

令和7年度

3月9日 No.14

北相中学校区 幼保小中連携の取組

毎年、工夫しながら幼保小中連携を続けている北相中学校区（北相中学校・桂北小学校・千木良小学校・相模湖こども園）の取組をお伝えします。

【桂北小・千木良小・相模湖こども園交流会】



今年度は、連携小学校・園みんなで集まろう、会場を相模湖こども園にしようと計画し、初めての形で交流会を行いました。園児は歌をプレゼントし、1年生は各校ジェスチャーゲームや写真等で学校生活を伝えました。園児からは「小学校楽しそう!」という声。交流会のねらいどおり、小学校を知り、就学への期待を高めることができたようです。

その後は、グループに分かれて自己紹介やゲームに挑戦。楽しい時間を過ごし、園校それぞれのねらいに合った姿が見られました。

園校それぞれが
ねらいをもった連携

見えない学び
非認知能力

学びの連続性への
気付き・意識

【北相中 ふれあい体験】

北相中3年生が家庭科の授業の一環として行った園児とのふれあい体験では、中学生が発達段階に合わせて手作りした絵本の読み聞かせをしました。保育室に入ってきたときから振る舞いを変えたり、読み聞かせでは園児の反応に合わせてやりとりしながら読み進めたりと、臨機応変な対応をする生徒たち。工夫いっぱいの絵本と読み聞かせに、園児も大喜びでした。ふれあい体験を行うにあたって、園校で打ち合わせをもち、それぞれがねらいをもって準備し、当日を迎えたことが分かりました。

お兄さん・お姉さんの人数を数え、校長に好きな色を聞き、黙々と折り紙でハートをつくらせていた園児がいました。終わりの会で整列した生徒全員の胸には、プレゼントされたハートが。「してあげる」「してもらう」ではなく、お互いに相手を意識した行動、思い合う姿がありました。これがまた、それぞれの次の姿につながるのでしょうか。

年長5歳と中学3年15歳。それぞれの姿に、「みんなの10年後だね」「皆さんの10年前ですね」との副園長の言葉と、園校の先生同士で子どもたちの姿を見取り、伝え合う姿から、学びの連続性について考えさせられました。

